

シンポジウム4：生き方に向き合う在宅医療

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 演題名 | 癌末期ドラマ「五平最期の希望（のぞみ）～限られたいのちの伝え方～」 |
|-----|-----------------------------------|

概要

岐阜県の在宅医療専門診療所 総合在宅医療クリニックからは、癌末期患者のケースをドラマで提示します。

癌末期の患者様では、「癌であること」は伝えられているものの、「残りの時間について」は知らないケースが散見されます。残り時間という重要な情報を知らない中では、本人はさまざまな選択（治療法、積極的治療を受けるか、緩和ケアを受けるか、療養場所の選択）を行うことが難しくなります。一方残り時間の予測はそもそも難しい時や、残りの時間に本人がとられ過ぎることで、かえってよい療養が行えないのではないかという家族の不安もあります。現在の医療現場では残りの時間まで患者全員に伝えることは行われていないし、伝えるべきかについては様々な意見があるのが現状です。「本人の生き方に向き合う医療」を考える時、どのような時に、どのように残り時間を伝えるべきなのかということと一度考え、整理するディスカッションにしたいと思っています。「誰に、何を、どのように、伝えるべきなのか？」

フロアディスカッションでは「伝える後悔、伝えない後悔」をした体験、この問題に関する原理原則について意見をいただき、共に考える場を創って行きたいと思っています。

【映像の内容】五平最期の希望（のぞみ）～限られたいのちの伝え方～

五平はねぎ農家の70代男性。がん末期で病名は知っているが、残り時間は知らない。もともと根っからの鉄道ファンで「トワイライトエクスプレス」という寝台列車に乗りたいと以前から思っているが残り時間がわからないので、今(12月)に乗るのではなく、もっと暖かい時になって、治療が終わったらぼちぼち準備したいと思っている。抗癌剤も効かなくなってきた、主治医はそこまでの時間はないと思っている。もともと落ち込みやすい本人に対して家族は残り時間、治療が難しいことを伝えるのは反対。家に帰るのも反対で、病院になるべくおいて欲しいという希望。ただ残り時間を知らずにいる本人には残り時間を伝えたほうがいいのかという話を医師や看護師から聞き家族のところが揺れていく……。五平は「トワイライトエクスプレス」に乗れるのか？